

会 議 録

会 議 名	令和5年度第1回東松山市幼児教育振興懇談会			
開 催 日 時	令和5年4月26日（水）	開 会	午前10時30分	
		閉 会	午前11時10分	
開 催 場 所	東松山市役所 本庁舎3階 全員協議会室			
会 議 次 第	1 開会 2 あいさつ 3 協議事項 (1) 令和4年度事業報告 (2) 令和5年度テーマと事業計画 (3) その他 4 閉会			
公開・非公開の別	公開	傍聴者数	0人	
非公開の理由 (非公開の場合)				
参加者出欠状況	巢立 佳宏	欠席	中村 昭司	出席
	小佐野 真紀	出席	竹内 千鶴子	出席
	峯 岩男	出席	稲村 浩之	出席
	眞秀 宏	出席	狐塚 汐里	出席
	本嶋 郁美	出席		
事 務 局	教育委員会教育長 吉澤 勲		子ども家庭部長 神庭 法子	
	子ども家庭部次長 田島 裕之		保育課 課長 阿部 康裕	
	保育課 副課長 山崎 恵子			

	顛	末
1 開 会	事務局	
2 あいさつ	東松山市教育委員会教育長 吉澤 勲	
	参加者、事務局、自己紹介 座長については、令和4年度第1回東松山市幼児教育振興懇談会において、峯岩男氏を選任済 会議録署名人に稲村浩之氏、本嶋郁美氏を指名	
3 議 題	<p>座 長 議題（1）の令和4年度事業報告について事務局から説明をお願いします。</p> <p>事務局 （説明）</p> <p>座 長 このことについて、御質問や御意見等がございましたらお願いします。</p> <p>全 員 （特になし）</p> <p>座 長 ないようですので、御承認いただいたということで進めさせていただきます。続いて、議題（2）の令和5年度テーマと事業計画について事務局から説明をお願いします。</p> <p>事務局 （説明）</p> <p>座 長 このことについて、御質問や御意見等がございましたらお願いします。</p> <p>稲村氏 幼保小三者連絡会の参加対象者を教えてください。</p> <p>座 長 保育士、幼稚園教諭、小学校で主に低学年を担当する教諭が、授業を参観するというものです。なぜ、幼保小三者連絡会を開催するかと言いますと、先ほど教育長からお話をいただいたように、保育園、幼稚園から小学校への接続と連携の意味合いが強くあります。保育士、幼稚園教諭は小学校の低学年が、どのような指導要領で学習しているのかを参観し、実態を掴むことが必要であります。また、逆に小学校教諭が保育園、幼稚園での生活や遊びをどう展開しているのかを理解し、その後小学校での受け入れ態勢を整え、そして授業の柱としていくという経過をたどりますので、このようなメンバーで互いに</p>	

	<p>参観し合うというものでございます。</p> <p>稲村氏 ありがとうございます。</p> <p>座 長 ほかに何かございますか。</p> <p>中村氏 8月9日に幼児教育研修会が行われますが、昨年の研修会はリモートという形で各学校等へ配信しました。今年も一人でも多くの方が参加できるように、当日を研修日に位置付けていただいて、リモートで参加していただくと良いと思います。まだ夏休みのことですので今からでしたら、夏休みの計画に入れやすいのではないかと思います。</p> <p>稲村氏 確かに、ハイブリッド形式で開催していただけると多くの教員が参加できるかと思います。</p> <p>座 長 中村先生の御意見は有難く、また稲村先生にも御理解いただきました。これまでの幼保小の参観で子どもの実態を掌握するだけでは接続がうまくいかないと国も重い腰を上げ、子どもの育ちの連携を0歳から18歳までを互いに認識しあって進めていくとしております。その中で、一番の課題となっていたのが、幼児教育の特性であり、幼児教育の特性を理解するのに皆、非常に苦心しています。それは、保育園、幼稚園では就学前の準備教育をしているのではないかという認識が非常に強いということです。例えば、小学校で困らないように文字を書く、数を数えるなどしていれば小学校側は助かるということが挙げられます。それをなかなか打破できないでいたところ、ようやく保育指針や幼稚園の教育要領の改訂が行われ、幼児教育は上からの教育ではなく、0歳からの積み上げで子どもは育っていくと、国の中央教育審議会でも審議していただいているところです。その資料が、前回の懇談会でお配りしたものになります。これに基づいて、接続期を意味あるものにしていこうと進めているわけですが、幼保小の接続はなかなかうまく行っていないのが現実であります。それは先ほど申しましたとおり、認識が違っていたことにあります。幼児教育が小学校の準備教育だという認識は終わりにし、文字、数の教</p>
--	---

育ではなく、大成する力や意欲など、いわゆる非認知能力を遊びの中で総合的に育てていく必要があります。

「遊び」という認識が、地域社会ではまだ未熟であり、それをわかりやすくしていくためには、接続カリキュラムを作っていく必要があります。その接続カリキュラムについては、国がある程度示してくれるとは思いますが、東松山市においても市独自の接続カリキュラムをいずれ編成する必要が出てくるのではないかと考えています。ですから、他市町村に先駆けて推進していくことが求められていると思います。そのためには、この会を中心に変えていく必要があると考えておりますが、この会議以外の会議も開く必要がありますので、自治体においては、予算措置などをしていただく必要があるかと思えます。既に就学準備型の教育は終了であり、今後はグローバル社会で生きていくためには、幼児教育を今お話ししたようなことで進めていけば、大人になった時にそれなりに高収入が得られると「学力の経済学」の著書、中室先生もおっしゃっております。幼児教育には、そういう特性がある、だから接続が難しいということでもあります。これからの幼児教育は、ソーシャルペダゴジー型（社会による子育て）という認識を持っていただけると非常に有難いです。ソーシャルペダゴジー型は、ドイツやスウェーデンなどでは既に始まっています。20世紀から、アメリカ、イギリス、フランスなどは就学準備型を行っていましたが、それでは子どもが正しく育つことにつながらないと、中室先生達が提示してきたわけです。子どもたちを社会の中で活躍できるような人材に育てていくことが大切なのではないかと思います。そのために、専門家である先生にお話しいただき、それに基づいて今後の幼児教育について考えていく必要があると考え、このような事業計画を事務局と相談させていただいたところです。

事務局 先ほど、中村先生から幼児教育研修会を研修日に位置付けてはどうかと御意見をいただきました。去年は、対面

	<p>とオンラインのハイブリッド形式で開催させていただいております。今年も吉永先生に、ハイブリッド形式が可能か否かを打診させていただきたいと存じます。事務局としてもハイブリッド形式にし、より多くの先生方に御参加いただきたいと考えておりますので、先生との協議の上で改めてお知らせいたします。</p> <p>座長 よろしくお願ひします。先ほど、幼保小三者連絡会の参加者は主に低学年の担任であったとお伝えしましたが、教員免許を有しているからには、これからは避けて通れない道ですので、低学年の先生に限らず高学年の先生にも御参加いただきたいと思います。事務局においても、吉永先生への確認をお願いいたします。</p> <p>事務局 承知いたしました。</p> <p>座長 ほかに何かございませんか。</p> <p>稲村氏 素晴らしい取り組みであると感じ、学校の研修の中に位置付けられると良いと考えております。一方で、最近ではY o u T u b eで、ある程度日にちを限定して配信される研修もあると聞いております。今回の研修が難しくても、今後、そういった方法ができることにより多くの先生が参加できるようになりますので、是非とも検討していただきたいと思います。</p> <p>座長 ありがとうございます。貴重な御意見だと思います。小学校の先生は何しろお忙しく、こちらへ意識を向けていただく時間がなかったこともありますので、せめて1週間くらいは配信が必要かと思ひます。このコロナ禍で、保育園でも幼稚園でも大切な行事はライブ配信を行い、その後1週間くらいは保護者や祖父母が見られるような対応をとっていました。これからの社会では、このような配慮は避けては通れない道ではないかと思ひます。それ以外に、何かございませんか。</p> <p>全 員 (特になし)</p> <p>座長 ないようですので、令和5年度事業計画については、このような形で行うということによろしいでしょうか。</p> <p>全 員 (異議なし)</p>
--	--

	<p>座 長 続いて、議題（３）その他ですが、何かございますか。</p> <p>全 員 （特になし）</p> <p>座 長 先ほど、眞秀先生の御挨拶で加須市立幼稚園の副園長をされていたというお話がありましたが、加須市、深谷市はほとんどが公立の幼稚園です。ですから、幼稚園が学校内もしくは学校のすぐ近くにあり、連携、接続がスムーズに展開できる環境にあります。その御経験と校長という立場から、御意見を頂戴できましたら有難いです。また、教育長へお聞きしたいのですが、今、小学校へ出向いて主体的、そして対話的で深い学びを推進していく事業を推進していると以前お聞きしたことがあります。これは、今後も進めていくのでしょうか。</p> <p>教育長 その通りです。それは、小中学校の学習指導要領の中でも示されております。主体的、対話的な深い学びになるような授業改善に小中学校共に取り組んでいるところです。また、主体的という面においても保育園、幼稚園での取り組みは非常に参考になると感じております。遊びを通した学びから、興味・関心を引き付けていくという手法は、いかに授業への興味を引き付けていくかということと関連があり、この幼保小の連携の重要性を感じております。</p> <p>座 長 生活科の時間がある背景には、遊びを主体に幼児教育を受けてきた子どもたちがいきなり授業に入ることに抵抗がないようにという配慮があるのですが、結果的には、あまり意味がなかったように思います。そのことも含めて、今回のようなことにつながってきたのだと思います。資料の中にもありますが、関係者だけではなく、保護者や地域の方々にも教育は変わっていくものであり、その仕組みづくりが必要だと示されていますので、そのようになっていくことが望ましいと思います。他に事務局から何かありますか。</p> <p>事務局 特にありません。</p> <p>座 長 なければ、これで全ての議事を終了しましたので、座長を下ろさせていただきます。御協力ありがとうございます。</p>
--	--

	した。
4 閉 会	事務局 それでは、第1回幼児教育振興懇談会は以上をもちまして閉会させていただきます。 ありがとうございました。
<p>上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。</p> <p>令和5年5月15日</p> <p>署名委員 <u>          稲村 浩之          </u></p> <p>署名委員 <u>          本嶋 郁美          </u></p>	